

## 第3回中野区子ども・子育て会議（第4期） 議事録

### 【日時】

2020年10月27日（火） 19時00分～21時02分

### 【場所】

区役所 5階 教育委員会室

### 【出席者】

#### （1）出席委員 13名

寺田会長、和泉副会長、新開委員、関委員、谷崎委員、亀廻井委員、車田委員、  
中村桂子委員、岡見委員、上村委員、秋山委員、中村美恵委員、山本委員

#### （2）事務局 13名

子ども教育部長

子ども家庭支援担当部長

子ども教育部課長 7名

地域支え合い推進部課長 1名

子ども・教育政策課企画財政係 3名

### 【会議次第】

#### 1 開会

#### 2 議題

（1）令和元年度中野区子ども・子育て支援事業計画の実績評価（案）について

（2）児童相談所の開設に伴う児童福祉審議会の設置について

（3）中野区子どもと子育て家庭の実態調査の実施結果について

（4）新規開設予定の認可保育所における利用定員について

#### 3 その他

#### 4 閉会

## 【配付資料】

- 資料1 令和元年度中野区子ども・子育て支援事業計画の実績評価（案）について
- 資料2 児童相談所の開設に伴う児童福祉審議会の設置について
- 資料3 中野区子どもと子育て家庭の実態調査の実施結果について
- 資料4 新規開設予定の認可保育所における利用定員について

午後7時00分開会

### 事務局（子ども政策担当課長）

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中お越しいただきまして、ありがとうございます。

会議の開催に先立ちまして事務局からご報告いたします。本日は委員14名中13名の委員の皆様にご出席いただいております。中野区子ども・子育て会議条例第5条に基づきまして会議は有効に成立しております。

それでは会議の進行につきまして寺田会長、よろしく願いいたします。

### 寺田会長

皆様、お久しぶりでございます。お元気でお過ごしだったでしょうか。どうぞまたよろしく願いいたします。

それでは、これより第4期第3回中野区子ども・子育て会議を開催いたします。皆様におかれましては、お忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の議題は4件となっております。

それでは、議題1「令和元年度中野区子ども・子育て支援事業計画の実績評価(案)について」、事務局から説明をお願いいたします。

### 事務局（子ども政策担当課長）

《資料1について説明》

### 寺田会長

ありがとうございました。ただいまの議題についてご意見、ご質問などございますか。

谷崎委員、お願いします。

### 谷崎委員

幾つかの質問とお願いがあるのですが、これはまとめてお話ししていいですか。3ページ目なのですが、一番下のところに平成30年度実績と令和元年度実績の人数で書かれてい

るのですけれども、ここはパーセンテージで示していただくといいなと思っております。また、1歳半健診がかかりつけ医に変更されたのは多分2年目だと思うのですけれども、それによって何か変化があったのでしょうか。1歳半は節目なので成長発達の相談などがスムーズに行われているのかなということがちょっと気になっています。

#### 寺田会長

それでは一つずつご回答いただきましょうか。では、鷺宮すこやか福祉センターアウトリーチ推進担当課長、お願いいたします。

#### 事務局（鷺宮すこやか福祉センターアウトリーチ推進担当課長）

1歳6か月児健診の受診者数は30年度から31年度につきましては増えていきます。個別健診という形にはなりましたが、受診率も増えていきます。

個別健診の後も、かかりつけ医とすこやか福祉センターで情報を共有しまして、課題があるということであれば、すこやか福祉センターから保護者に対して確認、相談、支援を行っていくという体制は取っております。また、特に支援が必要であれば、どのようなサポートができるかということも確認しながらやっております。

受診率につきましては、平成30年度につきましては88.6%になってございます。令和元年度につきましては94.8%になってございます。

#### 寺田会長

ありがとうございました。ご丁寧にお答えいただきありがとうございました。よろしいですか、谷崎委員。

では、ほかにどなたかご質問ありますでしょうか。和泉委員、お願いします。

#### 和泉委員

23ページからの需要、確保方策のところと、総括のところと絡めた話なのですけれども、この需要見込みと確保方策のところ、特に保育施設、また幼稚園など十分に計画どおり確保できていて、実績を十分に受けられているという、そういう形で表記がなされています。

総括との関係のところという1点気になったのは、やはり需要が高く伸びている特定地域があるからこそ待機児童問題というのは解消できていないという部分がありますので、区民に対してやはり丁寧に説明するということ言えば、そういう待機児童解消という一つの一里塚だとは思いますが、それができていないので需要が高く伸びている特定の地域に対して対応を図っていくんだという一文をぜひ加えていただけたほうが、皆さんに理解をしていただきやすいのではないかなと提案させていただきます。

あともう1点確認させていただきたいのですが、平成29年度、30年度、元年度と3か年出てきたところで、計画との差異の部分というのがやはり広がってきている部分、特に0歳児、1・2歳児の3号認定のところというのがかなり目立ってきているのではないかなというふうに思いました。

というのも、特に小規模保育のところというのは、定員19名までのところを見ていったときに0歳で20人、そして1・2歳児で97人という差異が出ております。こういったあたりというのはすぐに経営問題になってしまうような事業者さんもあるのではないかなという、そういう懸念を持ちますし、また認証保育所に関しては東京都民であれば利用可能ですので、杉並から利用されていたりというのは過去にもありましたけれども、これだけ差異が広がっていったときに、これは単純に欠員ではないのかもしれませんが、こういった幅が広がっていくと認証保育所を選択肢としてお考えになっている区民が選択肢を失うというようなことも懸念しなくてはいけない今後の課題なのかなというところを数字からは読み取りました。実態としてはどうなのか、ご説明いただけると助かります。よろしくをお願いします。

#### 寺田会長

和泉委員、ありがとうございます。いかがでしょうか。

では、よろしくお願いたします。

#### 事務局（保育園・幼稚園課長）

今ご指摘のありました認証保育所、それから小規模事業について確かにこの数年、差が開いていっているということがあります。各保育園からは要望書も上がってきているという実態がございまして、認可保育所につきましても待機児童がいる一方で、空いているところも年齢によってあるという傾向がありまして、全体的な入所率としては下がってきているという傾向があります。待機児童はいるのだけれども、入所率も結局下がってきていると。特に小規模ですとか認証保育所の入所率が下がってきているというところがありますので、そこについては検討していくというところがございます。

#### 寺田会長

ほかにご質問ありますでしょうか。

お願いたします。

#### 中村委員

中村です。よろしくお願いたします。20ページのハイティーン会議のことなのですか

れども、中高生の健全育成事業としてハイティーン会議があるのですけれども、区内に中高生が一体何人いてメンバーが平成31年度は14人、令和元年度は23人、ハイティーン会議として実施、活動している内容として成功していると言えるのかどうかということをお聞きしたいのと、あと、うちの娘、ハイティーン会議というものがあるけど、やってみないかと言ったら、そんな会議なんてとんでもないという感じだったので、ハイティーン会議という名前自体がハードルを上げているのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

#### 寺田会長

中村委員、ありがとうございます。

いかがでしょうか。ご担当の方。お願いします。

#### 事務局（育成活動推進課長）

ハイティーン会議の名前はずっとこのまま17年ほどやらせていただいているのですが、対象者数、参加してくださっている方は確かに毎年20名前後、10名ぐらいのときもあるのですが、このぐらいで推移をしているところです。

成功しているのかということについては、人数が少ないという意味では疑問ということもあるかもしれないのですが、参加された方々については、その活動についてご満足をいただいていますし、活動自体はご自身で課題を見つけ、それを解決していくというプロセスを発信するというところでもあるので、事業の意義としては一定の効果はあったものと考えています。

ただ今後、参加人数が少ないことや発信についても様々な方法があるかと思えますし、認知も必ずしも多くはされていないところもあるので、課題はあるかと思えますが、意義はあると考えているので、今後よりよいものにつくり直していきたいと考えてございます。

#### 中村委員

よろしく申し上げます。

#### 寺田会長

ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。ご質問ありますでしょうか。

それでは、本日は議題がたくさんございますので、次にまいりたいと思います。

それでは、議題2「児童相談所の開設に伴う児童福祉審議会の設置について」、事務局から説明をお願いいたします。

## 事務局（子ども政策担当課長）

### 《資料2について説明》

#### 寺田会長

ありがとうございました。ただいまの議題についてご意見、ご質問などございますでしょうか。

新たにいろいろなことが設置されていく上ですので大変注目すべき内容かと思いますが、他に議題もございますので、この後進ませていただいて、最後に、もしこの件に関することのご質問があるようでしたら、その場でまた出していただけたらと思います。よろしいでしょうか

それでは、議題3「中野区子ども・子育て家庭の実態調査の実施結果について」、事務局から報告をお願いいたします。

## 事務局（子ども政策担当課長）

### 《資料3について説明》

#### 寺田会長

ありがとうございました。ただいまの議題についてご意見、ご質問などございますでしょうか。いかがでしょうか。

よろしくをお願いいたします。

#### 車田委員

私立保育園保護者の車田です。よろしくお願ひします。今回とても興味深い東京都と中野区の比較を拝見させていただいたのですが、3ページが一番下にあるところを見ますと、未就学児、小学生①②、中学生の困窮層の実際の数字というのが、この数字ということで、実際そのサンプルからパーセンテージで割ったときに対象として成立するのか、正直、誤差という点ではかなり大きなものになってしまう数字ではないかなというふうに思うのですが、この点を解決する策というものはないのかなというのが一つ質問です。とてもいい比較で中野区のポイントというものをより正確に把握する上でも、困窮層であったりというところの声をより拾うシステムができればいいなと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

## 事務局（子ども政策担当課長）

今回は子どもと子育て家庭、保護者を対象としてやったものになりまして、確かにサンプル数がある程度ないと様々誤差が出てしまうということもありまして、今回は各年齢ご

とに1,250という、かなり区の調査では大規模な形でやらせていただいています。ここに今回、報告書にまとめさせていただいたもの、こちらは概要版になりまして、もっといろいろな角度での分析を行っているものになります。様々な施策の立案に使えるものだと考えておりますので、なるべく誤差のないようなサンプル数を確保してやっています。

東京都との比較については、確かにおっしゃるとおり、調査をやっている時期も違います。まずは時期が違うということ、あとは都のほうも幾つか実際に抽出してやっていますので、そういう意味では少し単純に比較して統計的にどこまで合理性が図れるのかというのは、少し課題はあるかなと思っておりますが、都と中野区の傾向、特に中野区特有の課題というのが、この調査である程度分かったのかなとは考えております。

#### **車田委員**

ありがとうございます。

#### **寺田会長**

ほかにご意見ございますか。

秋山委員、お願いします。

#### **秋山委員**

ありがとうございます。大変興味深いデータだと思います。子どもの観点と親の観点で見ていただいていると思うのですけれども、冒頭に親子でマッチングしている件数もあるのかなと。小学生②と中学生で大体それぞれ1,000件ぐらいあったと思うのですけれども、親子マッチングでの事例ってないのかなということは結構見ておくべき情報かなと思ったのですけれども、いかがでしょうか。

#### **寺田会長**

いかがでしょうか。子ども政策担当課長、お願いします。

#### **事務局（子ども政策担当課長）**

ここは基本的に1世帯に対して調査票を送っていますので、例えば小学生の高学年と中学生については、子ども票と親票、両方郵送して送っているのですね。その中で親が回答したけれども子どもが回答しないケース、また逆のケースというのがありまして、その辺が親子マッチング率となっております。やはり見ていきますと、本当は100%に近い数字なのかなと思ったのですけれども、お子さんのほうがなかなか答えなかったとか、いろいろケースがあるので、ここにちょっとずれが生じているという結果になっております。

## 秋山委員

そういう意味ではなくて、回答内容についてのずれがある、意識のずれがあるとかというのが今回、虐待とかそういう視点とかもあったりするので、そういうことをお聞きしたいです。

## 事務局（子ども政策担当課長）

確かに今回、統計的な分析をしたので、あまり1対1の対応で中身にずれがあるかというところの分析まではやってないんですね。全て子どもの票と親の票を集計して、そこで特徴を見るという形でやっておりますので、今ご指摘いただいたような親と子で捉え方が違うとか、そういった分析なんかは今回はやっておりません。

## 秋山委員

やらないということですかね。

## 事務局（子ども政策担当課長）

やることを想定した調査票の仕立てではなかったということです。聞く項目も親と子で同じ項目を聞いているわけではなくて、子ども特有の質問、親特有の質問でやっています。

## 秋山委員

分かりました。

あと、もう一つなのですけれども、先ほどちょっと割愛されていた最後のほうの総括のところ、中野区の環境とかそのあたりは割愛されていましたが、今後の施策、事業計画に生かしていくみたいなイメージなのでしょうか。

## 事務局（子ども政策担当課長）

おっしゃるとおり13ページまでの部分については、いわゆる貧困対策を考えるための基礎的な調査になって、東京都の傾向との違いを見る。14ページ目以降は中野区オリジナルの項目で、どういう子育て環境が今、中野区の課題なのかというのを把握するためにやったもので、こちらは施策全般に活用していくというようなイメージで設定を行ったものでございます。

## 秋山委員

分かりました。ありがとうございます。

## 寺田会長

ほかにいかがでしょうか。

関委員、お願いいたします。

## 関委員

先ほどからの事業の実績と、そして今回こちらの実態調査、両方のことを聞きながら、こんなに中野区の子どもたちが困窮している子がいるんだという実際を見せつけられているというところなのですけれども、まずその前のところでも達成されていない、至らなかったということがこんなに多いということがあるわけですよ。つまり、かなり進んでいる、目標よりも進んでいるということなんだろうというふうにとれますし、また生活困窮度につきましても、9割弱の子どもは一般層であったというのですけれども、1割ぐらいの子ども、つまり10人のうちの1人、100人のうちの10人というのは決して少ない人数ではないという子どもたちが、私たちとずっと暮らしている、根づいてここに生きている者として、これを知るということは大変ショックでございます。

そういうことが東京都の比較においてもよくないほうに勝っているということについて、衣食住という中で、住については触れていませんけれども、衣食という本当に大きな生活の根本において、それが見えているということについて、一体この中野区という、私は住みよいところだと思いながら生活している中で、一体何がそうさせているのかという。現実だということは、これは分からなければならないのしょうけれども、その辺のところに踏み込んでいかないと、これを改善するという今度また目標の立て方にも課題が出て分かっていくのではないかと思いますので、そのところについてどのように考えていらっしゃるのかをお伺いしたいと存じます。

## 寺田会長

子ども政策担当課長、お願いします。

## 事務局（子ども政策担当課長）

ご意見ありがとうございます。やはり今、委員おっしゃるとおり、特に生活困難度別でかなりギャップが大きい、困窮度が上がるにつれて苦しくなってくる項目というのがありますので、そういったところをどうすれば埋められるのか。様々な、例えば食に対する支援とか、区でこれまで行ってきたものも当然あるのですけれども、そこを施策を強化したり、あと施策のターゲットをもう少し変えてみたり、そういったことをやりながら施策全体の底上げを図っていくというのが大切であると考えております。

## 関委員

子どもたちを助けるということは分かりますけれども、やはり子どもは家庭の子であろうと思うと、家庭を助けるというところでは、こんなふうに言うと絵空事と言われたりす

るかもしれないと思いますけれども、どう考えても教育の第一が家庭にありますので、そこを支援するという方策の中で子どもの心が貧困にならないということに向かっては何かございますでしょうか。

#### **事務局（子ども家庭支援担当部長）**

子ども家庭支援担当部長、小田でございます。いつもお世話になっております。

やはり1点は、いわゆる家庭の貧困的なものを改善していくためには、やはり子どもに対する教育というのは非常に重要だというふうには区としては考えてございます。また、区のほうでも困っていらっしゃる家庭に対していろいろな手当ですとか、就学援助世帯に対する支援であるとか、そういうことも具体的な金銭的なものでも制度としてもございますし、あと、やはり今回この調査の中で目に見えない総体的貧困の実態であったり状況であったりというのを区のほうが把握することによりまして、今後の区の取っていく様々な施策、政策の中に生かしていきたいなと考えてございます。

#### **寺田会長**

よろしいでしょうか。ほかに。

和泉委員、お願いします。

#### **和泉委員**

今、関委員がお尋ねになった子どもを助けるという意見、家庭全体を助けなくてはいけないのだというそのことに触発されて、ご質問させていただきたいのですけれども。そういった家庭全体を支援するということであると生活保護未満というか、ここに至らないまでも生活困窮者支援、自立支援というのがある、中野区も様々な施策を実施されていると思うのですけれども、その中でも子どもの学習支援、特に子どもの学びのところで言うと、図表の8、9、このあたりのところにあると思うのですけれども、「分からない」という子どもたちが中学生になるとかなり増えてしまう。高校進学というのもあるのですけれども、そのための学習支援というのは、どの程度利用されているのか、その点お伺いしたいのですが、お答えいただけるでしょうか。

#### **事務局（子ども家庭支援担当部長）**

今、和泉委員のほうからご質問あったところにお答えさせていただきます。

まず、学校全体では小学生、中学生に対する補習教室というのを区のほうでも実施してございます。それ以外に就学援助世帯である方々に対しましては、小学生は社会福祉協議会のご協力を得て、中学生につきましては予備校といいますか、そういう学習の専門機関

の協力を得て学習支援をしてございます。対象の方が、例えば就学援助世帯ですと区の中で、全体で2,200か2,300くらいあるかと思いますが、実際その小学生や中学生でご参加いただいている方は、総数で1割から1.5割くらいご参加かなと思っております。小学生につきましては学習をする習慣を定着させるということを目的としてございますし、中学生に対しましては、やはり高校の合格ということを目標に掲げておりまして、かなりご参加していただいている児童・生徒の皆さんは出席率も高いですし、実際効果のほうは上がっているかなというふうに感じてございます。

### 和泉委員

その支援の窓口にたどり着くまで、どうやって連れてくるかとか、そういうところが一番ネックになっているというふうには理解してよろしいですか。

### 事務局（子ども家庭支援担当部長）

学校のほうに、今の就学援助世帯の学習支援に関しましては各小中学校のほうに全校配布といいますか、チラシのほうはご案内させていただいておりますし、また学校の先生からもお勧めいただいている部分もあろうかと思いますが、そこに来てもらうまでが本当にお子さんの気持ちであったり、また保護者の方のご意向であったりというところではちょっと難しいところもあるかなというふうには感じてございます。ご指摘のとおりです。

### 和泉委員

ありがとうございました。

### 寺田会長

ほかに何かご意見ございますでしょうか。

よろしく願いいたします。

### 上村委員

社会福祉協議会でございます。今、小田部長から紹介がありました小学生の学習支援の進学塾、5カ所で50名弱ということで進めておるのですけれども、今年はコロナの影響で通信教育になっております。

それからもう一つ、今月号の区報でも1面で紹介されましたけれども、無料塾がかなりいろいろな経験をお持ちの方が自宅等々で、中央地区以外にも私どもが確認しているだけでも、10校ぐらいの無料塾が地域で展開されておりまして、塾の先生が無料でやってくさって、いわゆる学習習慣を身に着けるということで随分まちの人がボランティアで関わっていただいております。

## 寺田会長

ありがとうございました。そういった輪が、広がっていくといいですね。それと、何かボランティアしたいという方が気軽にこれる窓口ができるとか、マッチングですかね、なさってくださっているのだと思うのですけれども……。

## 上村委員

最近の区報がボランティア活動、地域貢献活動をまちなかサロンとか子ども食堂、今回は無料塾ということで、すごくいいストーリーでこのテーマに沿った展開をしてくださるので、すごく反響がありますので、後で最後にフードパントリーの話をしたと思います。

## 寺田会長

分かりました。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。ご意見ございますか。

では、新開委員、お願いします。

## 新開委員

11ページの子どもの健康なのですけれども、単純に東京都と比較はできないと言いながらも全てにおいて中野区のむし歯の数が多いということで、先ほど事業報告、実績評価の3歳児健康診査におけるむし歯罹患率のところではポイントが下がって目標が達成できたということで、全体的にむし歯の数が減ったにもかかわらず、貧困層において非常に高い割合でむし歯が多いという状況は多分、一般的な施策というか、事業では届いていないということが言えるのではないかと思うので、全ての家庭に平等にということ以外に、何か特に乳幼児の健康増進のところではできることがあるのではないかという気がいたします。

15ページの中野区の環境の下から3番目に食育・健康づくり対策、子どもの食育や健康に関する講座などのところで健康診断とか予防接種は満足しているのだけれども、やっぱり健康づくりのところのいろいろな講座などが「どちらともいえない」というのが61.8%の方が、あるんだかないんだか、知らないから、「どちらともいえない」と思っているのか、あるいはどういう意見か分からないけれども、とにかく満足している人が少ないということを見ると、やっぱり赤ちゃんのときから。先ほどの事業報告のほうには、子どもの歯と口の健康に関心が高い時期に歯科保健事業を実施というようなことが書いてあったのですが、これが貧困層に届いていないところの問題を何か解決していただけないのかなという思いがございましたので、意見させていただきました。

## 寺田会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

では、鷺宮すこやか福祉センターアウトリサーチ推進担当課長、お願いします。

## 事務局（鷺宮すこやか福祉センターアウトリサーチ推進担当課長）

今、ご意見いただいた件で、15ページのところで食育健康づくり対策ということで、すこやか福祉センターに勤務しています歯科衛生士が、近隣の児童館などへ出向いて乳幼児や小学生を対象に食育に関する講座等の事業を行っています。実際に児童館に来る子どもたちには様々な層がいますので、貧困というようなところでは該当する子、しない子もいるとは思いますが、幅広く子どもたちに食育を進めているという状況でございます。

あと、健診等が必要な時期に歯の健康や、むし歯のことについての説明というところで、健診等におきましても歯科相談なども行っておりますし、実際に歯科衛生士がいる中で、もしかしたら今後、個別的に相談・支援が必要なのかということに対しましては、きちんと対応していくというところでございます。

## 寺田会長

ありがとうございました。

ほかにご質問はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは次に、議題4「新規開設予定の認可保育所における利用定員について」、事務局から説明をお願いいたします。

## 事務局（幼児施設整備課長）

《資料4について説明》

## 寺田会長

ありがとうございました。この件に関してご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ほかにも本日の議題に関することでご意見、ご質問などございますでしょうか。

では、谷崎委員からどうぞ。

## 谷崎委員

先ほどの子ども・子育て支援事業計画の事業実績（案）というところの中の14ページのところに、園庭やプールがないことや散歩や公園に行くところが少ない。運動面に対する声が寄せられており、保育の工夫が求められているというところのくだりから、「中野区保

育の質ガイドライン」を活用してというふうに書いてあるのですが、昨年度、「中野区保育の質ガイドライン」というのができまして、先日、その説明会、情報交換会があったのですが、共立女子大学の田代先生が、これをできたところで皆さんが使っていただいて実績を積み上げて、どんどん変えていってくださいというお話があったと思うのです。

それを受けて本当にそうだなと私も思いました。「中野区保育の質ガイドライン」の中に、これを保護者の方が見て、ちゃんとそれが保育に生かされていますかというような質問をしていくということもあったのですが、そういうチェック項目に使うのではなくて、私立園はそれぞれの理念とか保育目標の上でやっているの、それも大事にしながら中野の保育をみんなでつくり上げていくというスタンスに立って、このガイドラインがあるというふうに思っているの、これがあることで各園のチェックをしていくということにならないようにしていただきたいなというふうに思っています。

資料4について、今回は新しい園に関しては民営化というところが非常に多いのですが、新設園を開設するに当たって、ここの園ではないのですが、近隣の人から反対をされているというようなことに対して、中野区としてはどのような対応をされているのかというところをお聞きしたいと思います。

#### **寺田会長**

今のお話、2点あったと思うのですが、保育の質のガイドラインについて、これから広めたりご説明いただいている時だと思うのですが、それについてのご意見と、それから新設園に関するご意見、2点あったと思いますので、お答えいただきたいと思います。お願いいたします。

#### **事務局（幼児施設整備課長）**

今ちょうど、「保育の質ガイドライン」については保育園、幼稚園にお配りして、研修等を通じながらいろいろな内容について周知していくと、そういう状況になります。確かに十分ではない冊子ではあるのですが、一つ一つ保育士の方が見ることによって保育の質を高めていきたいというふうに考えております。

#### **寺田会長**

もう1点の新設園に関してはいかがでしょうか。お願いいたします。

#### **事務局（幼児施設整備課長）**

いろいろ開設に当たってご意見いただくこともあるのですが、近隣の方のご理解をいただけますように説明会を開催したりですとか、ポスティング等で施設の計画等の内

容についてご説明するとともに、個別のご要望につきましても可能な限り事業者さんのほうに伝えまして、区のほうも調整の中に入りまして、近隣の方のご理解をいただけるように努めているところでございます。

#### 寺田会長

よろしいでしょうか。

それでは亀廻井委員、先ほど手を挙げていただいておりますので、ご意見いただきたいと思えます。

#### 亀廻井委員

私は私立幼稚園の保護者の代表で今期参加させていただいているのですが、ピンポイントで今日の議題に対しての質問ではないのですが、コロナで久しぶりに会議に参加したので、期待していた進みとだいぶ違って。私は年長の娘と、小学校5年生の息子が家庭にいるのですけれども、今日、先のことを、前年度以前の実績をもとに今後の話をされるときにどなたも、この半年のコロナ禍の変化を誰も意識したりお考えに沿っている方が1人もいらっしゃらなくて、ちょっとびっくりしたんですね。

例えば、このアンケートの件なのですけれども、これは私、出している側です。去年出したのですけれども、はっきり結論から言いますと、困窮という言葉と質問内容にすごくギャップがあったんですね。困窮というと、私のこれは個人価値観も入ってくると思うのですが、もう家賃が払えないとか光熱費が払えない、今夜のおかずが買えないとか、そういうところなのかなと思ったら、クリスマスプレゼントとかお正月のお年玉というところで、困窮という定義がものすごく、うちの家庭とはすごくずれていたんですね。それでいうと、うちはすごく程遠い家庭だなという実感をしたのですが、ただ、例えばコロナ禍で困窮とかいう考えもまた変わってきますよね、これから。実際、私の周りでもやっぱりご主人がお仕事できない方とかも増えてきていますし、進学ができないご家庭とか、そういうのもすごくたくさんあります。

なので、政策を進めるに当たって、例えば保育園がどうだとかピンポイントでお話ししていかないと進まないのはすごく理解していますし、そこに子育てしている現役として何か協力したいという気持ちはあるのですが、子どもが生まれてから19歳までの間の成人するまでを、私たち大人が地域で子どもを健やかに育てたいということなので、もうちょっとコロナ禍を前向きに捉えて、保育園が終わったから次、小学校でという、そういう切り取り方って育てている側はできないんですよ。やはり中学生までが地域でがつり育てる

年齢幅だと親としては思うんですね。なんですけれども、政策をそういうふうに中野区が、子どもが大人になるという定義は様々だと思うのですけれども、19歳までという年齢を定めているのであれば、そこまでのやっぱり一本、中野区はそういうふうに0歳から19歳の子をいろいろな家庭がある中で支えていきたいかという、何かそういうものが見えないと、コロナ禍で変わっていく中で不安に思いますよね、親としては。

なので、例えばこういうアンケートももうちょっと子育てしている家庭に寄り添った内容を研究していただくとか、困窮と言われると、やっぱりクリスマスにプレゼントを買えないということではないのではないかなという実感がすごくあるので。意見になってしまいうのですけれども、今後4月が過ぎて、この先のことを話していく時期に入っていくと思いますので、もうちょっと現在進行形で去年の10月とはコロナ禍で世の中も違うとか、そういうことも考えたようなことを話していける場になるなということを期待したいです。

#### **寺田会長**

貴重な意見をいただいて、ありがとうございます。どうしても子ども・子育て会議を進めていく中で計画（案）があって、中間報告があり、それを一応報告書としてまとめるという手順がありますので、それはそれとして今日の会議はものすごく意義のある会議だと、多分皆さんもそう感じてくださっていると思うのです。

プラスして、この場でそういうご意見をいただくのはすごく有難いと思いますし、私もこの資料を見させていただいて東京都と、中野区との比較が分かり易く、有難いと思います。中野区が、保護者から見た中野区の環境って何なのとか、子どもから見た中野区の環境ってどうなのとか見ていると、やっぱり予想どおりの答えがあるかなと思います。私も中野の区民なので、現状の課題があるならば、そこもどう解決していったらいいのだろうか。

それから今年の2月、3月頃から新型コロナ渦の影響から大きく状況が変わりましたよね。去年誰も想像できなかったと思うのです。ですから、それも含めてこの後のフリートキングの時間に、ぜひ皆さんいろいろご意見を言っていただきたいと思います。その最初の口火を切っていただいた亀廻井委員に大変感謝いたしたいと思います。

いかがでしょうか。皆さん、どうぞ活発なご意見をいただきたいと思います。ありがとうございます。車田委員、お願いします。

#### **車田委員**

ここで言う話ではないかもしれないのですが、誰にお伝えしていいか分からないのです

が、保育園に子どもを預けている身としてお伝えしたいことがあります。コロナ禍において本当に難しい決断、厳しい決断いろいろある中で、もちろん全ての人たちが満足できることはできていないのかもしれないのですけれども、こういった結果を積み上げていただいたこと、今自分がきちんと保育園に子どもを連れて行って、もちろん普段どおりではないのですけれども、普段に近い生活をさせていただいていることに関しては本当に感謝の気持ちしかなくて、保育園、もちろん幼稚園も入ってくると思いますし、中野区の方々に対して厚く御礼を申し上げたいというふうに勝手ながら思います。本当にありがとうございます。

先ほど関委員がおっしゃられたとおり、保育という言葉が、ただ子どもを預けているだけではなくて、人々の生活であったり、家庭を守ってくれる大切な装置だなというふう感じていまして、今回コロナを通してそれをより身に沁みた次第でございます。今、寺田委員がおっしゃられたとおり、なかなかない機会を今、得ているのではないかなというふうに思う部分がありまして、ここからが質問になります。

今回いろいろな決断をされて現在に至っていると思うのですが、これまでの出来事に対して何かまとめたりするようなことは中野区としてされていらっしゃるのでしょうか。多分、何十年後とかの話になるかもしれないのですけれども、今回のいろいろなことを見返したい時期というのがまたやってくるのではないかなというふうにも思うのですが、そういったときに役に立つようなものだったりということが用意されているのかというのが一つ目の質問です。

二つ目の質問が、現状先生たちに頑張ってもらっていて預けさせてはいただいているのですが、朝、僕は子どもを預けに行くのですけれども、園の中の教室に入ることはもちろんですし、玄関で子どもたちを預けてそれでおしまい。おしまいで大丈夫なのですけれども、新たな保育の、保育園の設計といいますか、施設の形というものに関しても衛生面とかを踏まえていろいろ考えていかななくてはいけない時期に差しかかっているのか、コロナを通して新たな常識みたいなものというスタンダードをつくっていかなくてはいけないのかなと思うときに、ここに関していろいろまたご検討されているのかをお伺いできればなと思います。

## 寺田会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

では、子ども教育部長、お願いいたします。

## 事務局（子ども教育部長）

最初のほうのご質問で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けていろいろな意味で区については緊急対応したりとか、いろいろな形で対処してきました。まとめてきちっとドキュメントとして残して、一定の検証をしながら次のリスク対応に生かしていくということは、また必要なことだと思います。区全体的には危機管理というセクションがありますので、そこがまとめていくことになると思います。

私は子ども教育部と教育委員会を所管しているのですが、教育委員会のほうも小学校、中学校、臨時休業して、それから子ども教育部については保育園も一時休園したということもあって、それを全部まとめて今、地方教育行法では教育の現場で起きているようなことを第三者に見ていただいてご意見をいただく点検評価を行っておりますが、そこに合わせて昨年度から今までの取り組みを付け加えて報告して、ご意見いただいこうと進めています。

区全体については、各方面やることが多くあるので、そこがそれぞれの部門でやったそれぞれの対応、それに対する検証結果、今後の対応計画といったところを全部まとめていくというふうに理解しております。

## 寺田会長

では、保育園・幼稚園課長、お願いします。

## 事務局（保育園・幼稚園課長）

保育園としましては4月以降、本当にいろいろな経験をさせていただいたということになります。それについては全て文書として残しておりますし、また、マニュアルもつくっています。本当に休園するときですとか、あとは実際に出ている中でも感染してしまう方がいらっしゃって急遽臨時休園するということもあって、どういうふうに対応していくかということについては一定程度の流れができてきたかなというふうには思っておりますので、この経験を生かして次に、来ないほうがいいですけども、あったとしてもスムーズに、保護者の方ですとか保育園の方とにかく早く情報提供できるかというところが最も求められておりますので、早く対応していきたいというふうに思っております。

## 寺田会長

ほかにはいかがでしょうか。

和泉委員、お願いします。

## 和泉委員

私、この子ども・子育て会議以外に教育委員会の事務の内部評価という委員も仰せつかっていまして、そちらのほうも今年に入ってから何回か会議を進めております。そのときに本来は前の年度の、つまり令和元年度の評価をするというのが本当の意味でのもともとのお役目なのですが、今回、教育委員会の事務局のほうからコロナ対策の動きというのを全て時系列に追ったような、そういう資料も提供いただきました。

そのときに私、率直に思ったのが、中野区、教育委員会、頑張っているなど。こんな頑張っているのだから、ちゃんと表に出さなくてはだめですよということも提案もしているところで、今、夏までの段階、夏休みに入るまでの段階、どれだけ頑張ってきたのかちゃんと出しましょうよということを行っているのですが、ホームページとかに出ないなと思っているのですけれども。実際、国の動きと東京都の動きと、また中野区の動きというのは、一応関係はしているのですけれども、独立して動いています。中野区内での現場の取組み、学校の現場の取組みというのはすごく、それぞれ独自性を発揮してくださっていて、本当にメディアに取り上げられるような中学校なんかもあったりとか、様々な取組みで児童生徒の学びを止めないぞという、そういう意気込みが感じ取れたような、そんな取組みだったなど、対応だったなどというふうに感じております。

実際の報告書というのが年度末から年度末明けぐらいで、もしかしたら来年の半ばぐらいまで公開されないかもしれませんが、少なくとも教育委員会がこれまでやってきたことは、ぜひ中間段階でもホームページなんかで公開してほしいなということは伝え続けております。

## 寺田会長

先ほど私、中野区のアンケートの結果、予想どおりだというふうに申し上げたのですが、それはいい意味でもたくさんございまして、今、和泉委員もおっしゃっていただきましたが、小学生に、i P a dを貸し出そうという動きもございます。これは他の自治体よりいち早い取組みだと思います。ですから、そういったところも是非どんどんPRしてほしいですし、小学生の学習成果を上げていくことにもつながっていくのではないかと思います。

また、先ほど中村委員もおっしゃっていただきましたが、ハイティーン委員会も、例えばリモートでやろうよとか、ハイティーンの名前を何か素敵な名前になるように、中学生アンケートを取るといふか、意見募集してもいいかもしれませんね。

新型コロナウイルスの状況だからこそ、普段はできないけれども、リモートとか、オンラインだったらできるよとか、そういう逆転の発想で、今までやれなかったことができるとか。例えば園訪問を直接しなくても中野区のホームページを見たらネット上で区内の幼稚園と保育園の園舎の様子が一覧で見えるとか、いろいろ工夫はあると思いますね。

せっかく良い機会ですから、ピンチはチャンスに生かしていく。この子ども・子育て会議の対象年齢は、0歳から18歳です。行政と地域の方がつながっていただくことが何よりも子育て、子どもを見守る、親子を見守ることにつながっていくと思います。家庭できちんととお子さんと向き合っていただくこともとても大事だと思います。

ほかにご意見ございますでしょうか。

#### **車田委員**

それを踏まえた上でいうと、せっかく一生懸命頑張って素敵なものに仕上がった中野区の子ども・子育て支援事業計画が、やはりコロナについて反映していない部分に関しては、なかなか現状と合っていない部分がどうしてもできてしまうかなというふうに思っていて。だから変えろというわけではもちろんなくて、ここに何か意見としてなのですけども、先ほど第三者を交えていろいろ精査をしている段階だというふうにおっしゃられていたので、もし可能であれば、これに付記する何か指針になるようなものができ上がったら素敵だなというふうに思うのですが、実際どのような動きをされていらっしゃるのかをお伺いできるとうれしいです。

#### **事務局（子ども政策担当課長）**

ご意見ありがとうございます。昨年度おまとめいただいた、この子ども・子育て支援事業計画第2期が今年度スタートということなのですけども、開始した年に新型コロナウイルスの影響が、これからアフターコロナ、ウィズコロナということで長いスパンでずっと区の政策にも関与してくるということが確かにございます。

今、中野区のほうでは、中野区の基本構想と基本計画という子ども・子育て支援事業計画よりもう少し上位の区全体の運営の指針、計画をつくっておきまして、それも当初の予定ですと、全体がかなり形になっている時期を今ごろに予定していたのですが、やはり新型コロナウイルスの影響もきちんと計画の中に反映しないといけないというような判断から計画の策定を少し遅らせて、今、新型コロナウイルスの影響も踏まえた上での基本計画の策定というのを進めております。

それで基本計画ができますと、当然その中に新型コロナウイルスの関係も含めた区の施

策のあり方というのが上位計画として位置づきますので、そうした場合は、この子ども・子育て支援事業計画についても中間の見直しというのができるということになっていまして、来期についても一度やっていると思うんですね。来期のときも確か基本計画ができてから、それを受けて中間の見直しをしておりますので、そういったことも含めて、今、委員がおっしゃられたとおり、新型コロナウイルスというものの影響も踏まえた上での施策の展開が必要になるというふうに考えております。

#### 寺田会長

いかがでしょうか。ほかにはよろしいでしょうか。

亀廻井委員、お願いいたします。

#### 亀廻井委員

先ほどは感想とか意見ばかりだったのですけれども、質問が二つあります。下の娘が今度4月から小学校1年生になるので、ちょうど就学前健診の案内がありまして、今月参加したのですが、私は上に息子がいるので就学前健診という制度と学区というのが分かっているのですが、やはり同じ幼稚園とか近くの保育園に通っていらっしゃるご家庭のお母さんとかで第1子の方とかは、自分がどこの学区かというのが分かっていない方が意外と多いんですね。その通知をもらって初めて知る。同じ幼稚園のお母さんでこの間、私、やはた幼稚園なので、大和町なので美鳩小学校とか啓明が結構学区が入り組んでいるんですね。啓明だと思ったら美鳩だったという通知をもらって、初めて知ったという方も何人かいたんですよ。学校の特色だとか児童数とかも全く皆さん情報がないんですね。自分で拾いに行かないと。通っていらっしゃる、上にごきょうだいがいるお母さんが聞けば教えてくれるけどという、そういう感じなんですね。中学も同じで、やっぱり気づいたら学区が変わっていたところがすごくあるんですよ。うちは歩いて7分で中野中に行けるのですが、今、緑野学区なんですね。それも私、この間知ったんですよ。

そういうこととかも何かもうちょっと、先ほど言った地域で育てるということを考えると、通知1枚でここに学校に行ってくださいというのは、例えば私なんか野方二丁目なのですが、緑野は、ほぼ練馬なんですよ、地域的には。なので、地域というのと全く違う感覚があるんですね。その辺とかも子どもが通うので、仲のいいお友達がみんな緑野に行くのは、私はいいと思っているのですが、そういうことも親が教育に関わっていく段階になっていくと、どういう学校なのか、部活は何があるのかなど気にはなりますよね。

何かそういう公立に対しての区民の家庭の、子どもの進学についての、もうちょっと事

前の情報とかサポートがあってもいいのではないかなと思います。

現状をお伝えすると、中学校の学区がちょっと複雑になっているのは分かるのですけれども、日々中野区から防災無線が来ると不審者の情報とかあると、私なんか息子なのでそんなに心配しないのですけれども、緑野中学校からうちに帰ってくるまですごく心配な道なんです。そういうことも考えると選択肢もないのであれば、どういう対策を学校とか地域はしてくれているのかなと。果たして私たちは緑野の地域として考えてもらえている住まいの場所なのかなとか、そういうことも考えてしまうのです。

なので、就学前の通知が行く前に、公立の学校に通う家庭もまだまだ多いので、そういうことを先ほど和泉委員がおっしゃったみたいに、もうちょっとデジタルを利用していくとか、そういうことも必要だと思うのですけれども、何か今までそういう就学前に公立小学校の近信ということ以外で、何か学区が変わりましたとかそういうお知らせとかは今までなかったと思うのですけれども、今後そういうことをお考えになったりするのでしょうか。

#### **寺田会長**

戸辺委員、お願いします。

#### **事務局（子ども教育部長）**

通学区域が変わるときって、学校の統合・再編のときが大きく変わるんですね。今お話ししていた緑野小学校も統合でできた学校ですので、基本的には統合に合わせて通学区域も変わっていきます。そういうときは何年もかけて統合に向けて統合委員会というのをつくって、そこで新しい学校の名前、校章、校歌、それから中学校であれば制服全部選んで、その経過についても全部統合ニュースということで、各戸配布でお配りしていたりとか、節目節目に説明会を行ったりとかという形で進めてはいるんですね。

ただ、やはりご興味のない方は自分たちが当事者になるまで分からなかったというのがありますし、こちらのほうも各学校ごとにホームページはつくっているのですけれども、なかなか更新が……。

#### **亀廻井委員**

在学だと見ますけれども、やっぱり通う前は見ないですよね。そこが私立と公立の違いなのです。

#### **事務局（子ども教育部長）**

それとあともう一つが、今、関委員もいらっしゃいますけれども、保幼小中連携という

のを非常に今、中野区で力を入れていて、幼稚園から小学校、保育園から小学校、また小学校から中学校といったときに、その入る手前に子どもたちが小学校と交流したりとか、そういうことをしながらだんだん、すぐなじめるように連携を取っていく。その中の一環として保護者の皆さんにも公立の学校のご案内とかそういったものは、もっと充実できるのかなと今お話を聞いていて思いました。ちょっと足りていなかった部分も確かにあったかなというふうに感じています。私立に行かれるお子さんももちろんいるのですけれども、幼稚園のお子さんがどの辺のところの学校に行くのかといった目安をつければ、大体資料やご案内のチラシぐらいはご用意できますので、もう少し積極的にPRしていきたいと思っています。

#### **寺田会長**

ありがとうございました。

よろしいですか。

#### **亀廻井委員**

私も中野の教育にすごく満足はしているので、幼稚園から中学まで。でも、やっぱり中学から学区の問題とか情報が足りなくて、それだけが理由で私立を目指してしまうお子さんとかご家庭はすごく今、多いので、すごく残念なので、せっかく幼少期に投資したものはちゃんと残って、中野で学んでほしいなという気持ちが一応親としてありますので、積極的に区からもやっていただけたらいいなと思います。

#### **寺田会長**

貴重なご意見ありがとうございました。区域ごとにホームページ上で、例えば統合したらこの地域はこの学校とかと、ホームページ上とか、何かクリックすると区民の方がすぐに分かるような何かそういうシステムがあると、きっと。チラシ配布でなくても。

#### **事務局（子ども教育部長）**

あるんです。確かにそこまで行かないと見られないというのがあって、ご興味のある方は調べてそこにアクセスしてくれますけれども、やはりこっちからも紙なりで情報提供は緻密にやってくれたら……。

#### **寺田会長**

ありがとうございます。

それでは、いろいろ見やすい、見える化をしてくださるそうですので、ご期待したいと思います。

ほかにご意見ありますか。

関委員、お願いします

### 関委員

それにつきましては保幼を使っていたいただいて、本当にいつでもお配りをさせていただきますので。今、保幼小中の連携の中でも、やっぱり一貫して主体的で対話的で深い学びというのが、ずっとそれを持っていくという。その土台はやっぱりゼロから始まっているわけですから、そこで愛される子どもとして自分が肯定感を持てるように、それからその意識がしっかり育って、そして学習につながっていくという、その基礎を幼稚園、保育園は担っていると思っていますので、そこをしっかりと利用していただいて、つまりは、そこは家庭とともにあるところですので、ぜひ家庭を応援するという形で子どもたちの応援の仕方をお願いしたいなというふうに思って終わらせていただきます。済みません、ありがとうございます。

### 寺田会長

それではほかにございますか。よろしいですか。

皆さん、チラシをご覧いただけますでしょうか。

### 上村委員

時間がない中、貴重な時間ありがとうございます。中野区社会福祉協議会で大変お世話になっております。今日は生活困窮の状況等々で、食料の困窮の状況ということで7割の人は食料困窮感があるということで、これは平成元年ですから、今コロナ禍の中でこれが深刻化しているというようなことがあります。というのは、15カ所あった子ども食堂が今、休止しております。本当でしたら今年、月曜はここ、火曜はここ、水曜はここというような案内をしようと思っていたところの矢先で、そういうことが一切だめになりまして、ご家庭で本当に家庭支援ということでSOSが届いております。

そういう中で考えたのがフードパントリーをつくろうプロジェクトということで、フードパントリーというのは食材を無料で配布をすると。お米とか冷凍食品とかそういうのをパックにしてお配りするというプロジェクトで、昨年は辞書を配ろうプロジェクトで、57万円で156冊の辞書を小学校6年生に送りましたけれども、その第2弾ということで今回はフードパントリーを目標金額30万円で12月と3月に、今、区のほうと連携して場所を選んで、まず2カ所本年度やって、これは単発ではなくて恒久的になるように中野の子どもの応援基金というのも合わせて設置をして今、特例給付金10万円を使ってくださいというよ

うな方も何人もいらっしやいまして、そういうことも含めて基金にしていきたいというふうに思っております。後ろに寄附の申込書というのが出ておりますので、この場でいただくということではありませんので、ぜひ銀行振り込みを、吉成会長名でできておりますので、どうかご協力よろしくお願いいたします。以上です。

#### **寺田会長**

ありがとうございました。

それでは本日の議題は以上で終了となります。

最後に次回の日程について、事務局からお願いいたします。

#### **事務局（子ども・教育政策課長）**

皆さん、どうもお疲れさまでした。

次回の予定ですが、令和3年2月上旬から中旬にかけて予定しておりまして、令和3年度の予算（案）の概要などの議題を予定しているところでございます。また予定が決まりましたら皆さんにお知らせするようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

#### **寺田会長**

ありがとうございました。

それでは、これで第4期第3回中野区子ども・子育て会議を終了いたします。本日も様々貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

午後9時02分終了